

芦屋浜高層住宅

Ashiyahama High-rise Housing

新しい暮らしを実現し、 空へ伸びる「まち」

兵庫県芦屋市の芦屋浜高層住宅は、国が主導するプロジェクトの趣旨に沿って、昭和54（1979）年に企業グループが先進技術を結集して造り出した住宅団地である。高層化した住棟では快適で安全な近未来的な暮らしが実現した。日本建築学会賞等を受賞。



昭和54年に誕生した芦屋浜高層住宅。芦屋浜シーサイドタウンの中央に52の住棟が林立する。階段とトラスによる造形が今なおモダンさを感じさせる。



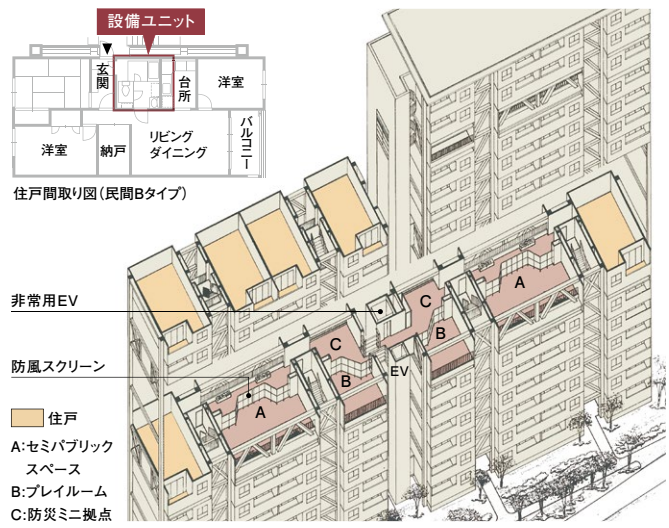
トラスと階段で形成された大架構構造に4層の住戸が収まっている。



防火設備の一つ・ドレンチャー。住宅に設置したのは当時としては先進的な試み。



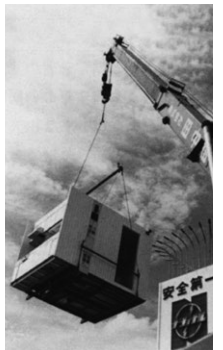
トラスは7階、12階…と5階ごとにあり、共用階、セミパブリック空間として設計された。



※ASTM企業連合「芦屋浜高層住宅プロジェクト」建築計画図を元に加工



台所の背面に洗面・トイレ・浴室が集約されている。こうした設備ユニットを一括して工場生産した。(兵庫県住宅供給公社賃貸住宅の例)



松下電工(当時)の社内で行われた揚重・検証の様子。画像提供: 石原誠一氏



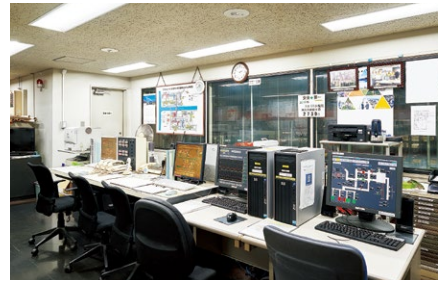
PCa板の床・壁を組み上げた所へ、設備ユニットなどを揚重、搬入し、次の階の床を取り付けた後、内装を仕上げた。画像提供: 株式会社アステム



真空ゴミ収集システム。共用階と1階にゴミ投入口があり、処理場までの搬送パイプは地下を通っている。



地域エネルギープラントで集中的に高温水を作り各戸に熱を供給する。防災の観点から地域暖房給湯システムが採用された。



地区防災監視システムと地域暖房給湯システムを管理するセンター。24時間体制で集中監視制御を行っている。

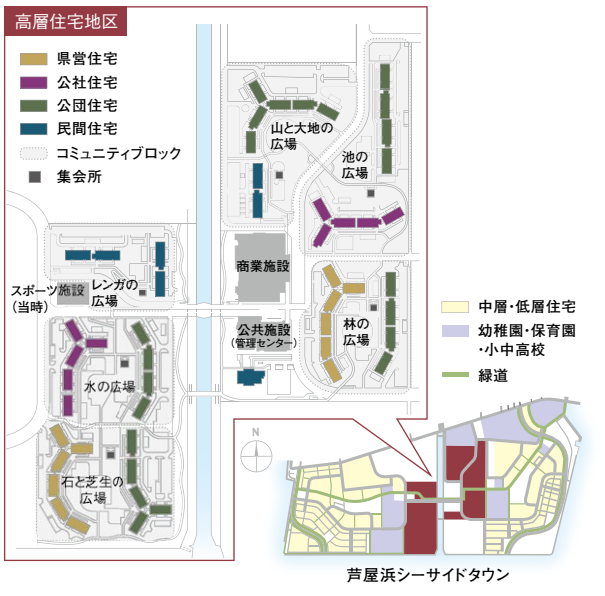
昭和50(1975)年、芦屋浜に総面積約125haの埋立地が完成した。その4年後、中央部の約20haに14～29階の高層住宅52棟が竣工。やがて約1万人を超える人々が暮らす新しい「まち」が誕生した。

当時の建設省は良質で適正な価格の集合住宅の開発、住棟の高層化、住宅生産の工業化をめざすパイロットプロジェクトシリーズを進めており、第2弾として昭和48年に「工業化工法による芦屋浜高層住宅プロジェクト提案競技」を実施した。127企業が22グループを作って応募し、25提案の中から第1位となったのが

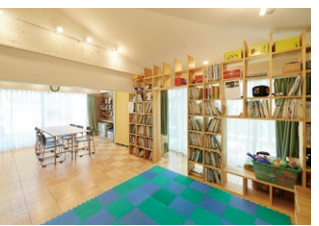
このASTM企業連合のプランであった。

住棟の外観で目を引くのは5階ごとのトラスと、縦に伸びる階段で、前者を梁、後者を柱とする鉄骨造の大架構構造となっている。そこにPCa板の床・壁などで構成される住戸を4層ずつはめ込む画期的な工法を採用。これにより住戸内には梁、柱がなく、間取りが自由な広々とした空間が生まれた。多くのPCa板や、台所・洗面・トイレ・浴室などをパッケージ化した設備ユニットは工場で生産。現場に搬入して組み立てる方式で、品質の安定化や施工の省力化、コストダウンを実現している。

4事業主が管理・運営する住戸は分譲・賃貸計3,381戸。間仕切り壁の移動によって2LDK～3LDKの6種類が造られた。梁部分は共用階とし、住民の交流スペースを設けるとともに、災害時の一時避難場所と位置付けて防災設備を整えるなど高層住宅の安全性確保にも重点を置いている。また、地域エネルギープラントから高温水を送水して熱を供給する地域暖房給湯システム、ゴミ投入口から搬送パイプで自動的にゴミを処理場へ運ぶ真空ゴミ収集システムなども完備し、当時最先端の住環境を備える住宅団地となった。



事業主が異なる住戸を300戸単位で混在させ、ブロック中央に住民交流の場を設けた。



シニア世代だけでなく、多世代の交流スペースとして改装された第2集会所。

用語説明

【工業化工法による芦屋浜高層住宅プロジェクト提案競技】主催は建設省(当時)、兵庫県、芦屋市、日本住宅公団(当時)、兵庫県住宅供給公社、日本建築センター

【ASTM企業連合】A:芦屋浜、S:新日本製鐵(当時)、T:竹中工務店・高砂熱学工業、M:松下電工(当時)、松下興産(当時)の頭文字。

【4事業主】兵庫県、兵庫県住宅供給公社、日本住宅公団(当時)、株式会社アステム

協力:兵庫県、兵庫県住宅供給公社、独立行政法人都市再生機構、株式会社アステム

